

# 鳴海真希子さん 追悼演奏会



Photo by Akiko T. Shiraishi 2001

2002年12月3日(火)

盛岡市民文化ホール・小ホール

# ごあいさつ

発起人代表 渡邊伸作

本日は鳴海真希子さん追悼演奏会において頂きありがとうございます。

ニューヨークを拠点に音楽活動をしていた鳴海真希子さんが、去る4月30日に33歳の若さで永眠なされました。数々のコンクールで入賞、新作オペラへの出演が決まるなど、まさにこれから演奏家として花開くというときの悲報でした。

鳴海さんはここ盛岡において4年間、岩手大学の学生として音楽を学んでいたのですが、彼女の音楽に対する情熱、真摯な姿勢で取り組む姿を見て、ともに音楽活動をしていた私たちは刺激を受け、たくさんのことを学びました。もう共に音楽をしたり、語り合ったりすることができないと思うと、本当に残念でなりません。

今回、そんな彼女と音楽により出会い、音楽を奏でてきた仲間たちで、音楽会を開き、彼女を偲ぼうと考えました。幸いにもこの考えにたくさんの方が賛同して下さり、多大なご協力を頂き、この演奏会を開くことができました。

天国にいるであろう彼女に、本日の演奏が届くことを願っています。

---

## 発 起 人

- |        |                       |
|--------|-----------------------|
| 佐々木正利  | (岩手大学教育学部音楽科教授)       |
| 佐々木まり子 | (恩師・月が丘クワイア代表)        |
| 渡邊伸作   | (岩手大学合唱団OB代表)         |
| 小川 暁美  | (岩手大学教育学部音楽科友人代表)     |
| 渡辺 信之  | (盛岡バッハ・カンタータ・フェライン代表) |
| 田口 和生  | (岩手大学合唱団委員長)          |
| 後藤田篤夫  | (鳴海真希子後援会会長)          |



こちりあこ



## 第1部 ～真希子さんとの思い出の歌～

1989年、第37回の定期演奏会で、なるちゃんの指揮で歌いました。私達の楽譜には、なるちゃんの指示がびっしりと書き込んであります。

|       |    |                  |                |
|-------|----|------------------|----------------|
| 武満 徹  | 作曲 | 混声合唱のための [うた] より | 岩手大学合唱団OB・OG有志 |
| 井沢 満  | 作詞 | 島へ               |                |
| 谷川俊太郎 | 作詞 | うたうだけ            |                |

「この道」を歌ったベッヒラインの演奏会では、鳴海さんが私の髪を結って下さいました。「叱られて」は鳴海さんがニューヨークのレッスンで歌ったとき、「言葉がわからずとも心に響く」と言われたそうです。鳴海さんに負けないように歌いたいと思います。

|       |    |     |          |
|-------|----|-----|----------|
| 山田 耕筈 | 作曲 | この道 | 藤崎 美苗    |
| 北原 白秋 | 作詞 |     | ピアノ 浅沼友絵 |

|       |    |      |
|-------|----|------|
| 弘田竜田郎 | 作曲 | 叱られて |
| 清水かつら | 作詞 |      |

2000年12月、オランダでの共演が最後となりました。鳴ちゃんは私のソロを聴き「先生の“初恋”すごく好きだ」と語ってくれました。ともにすごしたオランダでの数日間は、いい思い出として心に残っています。そして、鳴ちゃんの魂が天国に導かれますように、心を込めて讃美歌を歌います。

|         |       |               |          |
|---------|-------|---------------|----------|
| 讃美歌21より | 第516番 | 主の招く声が        | 佐々木 正利   |
|         | 第522番 | キリストにはかえられません | ピアノ 浅沼友絵 |

|       |    |    |
|-------|----|----|
| 越谷達之助 | 作曲 | 初恋 |
| 石川 啄木 | 作詞 |    |

1990年、岩大4年の真希子さんが教育実習で指導された2曲と、岩大音楽科新入生歓迎行事で上演したサウンド・オブ・ミュージック。真希子さんは貫禄ある修道院長をなさいました。研究室の偉大な先輩を偲んで、所属現役学生全員で歌います。

木下 牧子 作曲 混声合唱曲集「地平線のかなたへ」より

岩手大学教育学部音楽教育講座

谷川俊太郎 作詞 春に

佐々木研究室

指揮 佐々木正利

荻久保和明 作曲 組曲「IN TERRA PAX～地に平和を～」より

ピアノ 内藤 梓

鶴見 正夫 作詞 IN TERRA PAX ～地に平和を～

アルト 白金 真美

テノール 千田 愛

リチャード・ロジャーズ作曲

オスカー・ハンマーシュタイン作詞

ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」より

Climb Ev'ry Mountain

英語圏でガンとの闘病生活を送っている彼女に、なんとか日本語での慰めの歌を届けたくて、2001年のクリスマスプレゼントに、ビデオを贈りました。

黒人霊歌より

世界に告げよ

月が丘クワイア

きみもそこにいたのか

指揮 佐々木まり子

深い川を越えて

耳新 藤式

五音科録 (マソ)



## 第2部 ～真希子さんの御冥福をお祈りして～

シュッツ作曲 ああイエス、甘き御名よ

及川 豊

ピアノ 関口美彩江

モンテヴェルディ作曲 われは黒けれどうつくし、エルサレムの娘らよ

バッハ作曲 カンタータ第106番

「神の時こそ、いと良き時」より

アルトアリア

「我が魂を御手に委ねます」

佐々木 まり子

ピアノ 劔持清之

カンタータ第42番

「主イエスが復活された日曜日の夕方に」より

アルトアリア

「2人でも3人でも、私の名において集まる所には、  
私もその中にいるのです」

バッハ作曲 カンタータ第84番

「私はこの幸福に満足しています」より

ソプラノアリア

「私はこの幸福に満足しています」

佐藤 澄江

ピアノ 劔持清之

～ 鳴海真希子さんの軌跡 ～

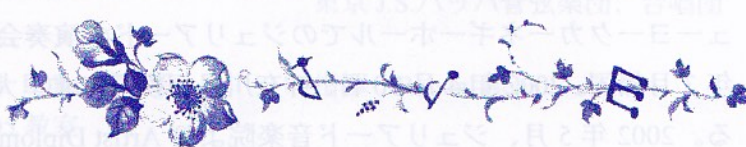
演奏歴・コンクール歴

バッハ作曲 カンタータ第3番 「ああ神よ、いかに心痛の多きことか」より  
ソプラノ・アルト二重唱  
ソプラノ 藤崎 美苗  
アルト 佐々木まり子  
ピアノ 劔持 清之  
「悩みが我が身に襲うとも、我喜んで我がイエスに歌わん」

バッハ作曲 カンタータ第80番 「神は我がやぐら」より  
アルト・テノール二重唱  
アルト 佐々木まり子  
テノール 佐々木 正利  
ピアノ 劔持 清之  
「いかに幸いなるかな、その口で主を告白した者は」

フォーレ作曲 「レクイエム」より  
1997.5  
我を許し給え  
楽園にて  
盛岡大学合唱団OB・OG合同  
指揮 佐々木正利  
バス独唱 佐々木直樹  
ピアノ 細田 彩子

バッハ作曲 「ヨハネ受難曲」より  
1997.12  
安らかに眠れ、汝、聖なる亡骸よ  
ああ主よ、あなたの愛する天使に命じて  
盛岡バッハ・カンタータ・フェライン  
指揮 佐々木正利  
ピアノ 劔持 清之



## ～ 鳴海真希子さんプロフィール ～

### 第2部 ～真希子さんの御冥福をお祈りして～

青森市出身。岩手大学、東京芸術大学卒業。東京芸術大学大学院修了。国際ロータリークラブ奨学生としてニューヨークにあるジュリアード音楽院に学び、2001年5月同オペラセンターを修了。声楽を佐々木正利、伊原直子、磯貝静江、故ベヴァリー・ジョンソン、リタ・シェーンの各師に師事。岩手大学合唱団ではチーフコンダクター、東京芸大バッハ・カンタータ・クラブでも指導的立場につく。芸大在学中には、ヴォイストレーナー、指揮者としてたくさんの合唱団を指導している。

1998年にアメリカ・アスペン音楽祭ヴェルディ『ファルスタッフ』のクイックリー夫人で出演以来、これまでにロッシーニ『シンデレラ』、ブリテン『ルクリーシャの恥辱』の両タイトルロール、プーランク『カルメル会の修道女の対話』の修道院長、グルック『アルミーデ』、シャブリエ『星』、ヴァイル『ストリート・シーン』、ベルナルド・ランズ『BELLADONNA』（世界初演）でリーディングロールをデイヴィッド・ツィンマンの指揮のもと務める。また2000年夏のタングルウッド音楽祭ミュージックセンター主催ヴェルディ『ファルスタッフ』では全米オーディションに合格し、小澤征爾指揮でクイックリー夫人を演じた。ボストン・グローブ紙は「バリエーションに富んだ豊かな声」とその演奏を高く評価した。また同年10月にはドイツ州立シュトゥットガルト歌劇場モンテヴェルディ『ポッペアの戴冠』にアルナルタで出演、ヨーロッパでの活動も始まった。東京フィルハーモニー交響楽団とオペラコンチェルタンテシリーズ・ストラヴィンスキー『夜鳴きうぐいす』（沼尻竜典指揮）で共演し、「音楽の友」「読売新聞」「モーストリー・クラシック」等から好評を得る。

宗教曲の独唱者としても、バッハ『マタイ』『ヨハネ』両受難曲、『ロ短調ミサ曲』、ヴェルディ、モーツァルト『レクイエム』、メンデルスゾーン『エリア』をヨアヒム・ロッチュ、ゲオルグ・ピラー、ゲルハルト・ボッセ氏等の指揮で共演し、いずれも高い評価を受ける。また、コンサートではベートーヴェン『第九交響曲』、マーラー『リュッケルトの詩による歌曲』『交響曲2番』、ファリャ『恋は魔術師』の独唱、2000年シンシナティ交響楽団演奏会（シンシナティ五月祭）でジェームス・コンロン指揮のもとマーラー『交響曲8番』でアルト独唱を務めるなど、着実に活動の場を広げる。

メトロポリタンオペラ劇場主催の全米コンクール準決勝入賞、ジュリアード・声楽コンクール1位、リチア・アルバネーゼ国際オペラコンクール2位受賞、ハンスガボアオペラコンクール日本代表。

2001年8月、公演先のアメリカコロラド州アスペン音楽祭公演中に病に倒れ、ニューヨークの病院に入院。「軟部肉腫」と診断され、アメリカの最高医学のもと治療を続ける。同年12月、ニューヨークカーネギーホールでのジュリアードの演奏会、マーラー『復活』でアルト独唱。2002年3月帰国。2002年4月30日、神奈川県相模原市北里大学病院にて将来を惜しまれつつ逝去される。2002年5月、ジュリアード音楽院より Artist Diploma を授与。

## ～ 鳴海真希子さんの軌跡 ～

### 演奏歴・コンクール歴

- |                    |   |   |
|--------------------|---|---|
| 1993.10            | 友愛ドイツ歌曲コンクール 学生部門第一位                              |   |
| 1994.8             | 『Carmen』 Bizet Carmen 役 アンダースタディ                  | 指揮 松尾葉子   |
|                    | 練馬文化事業団主催コンサート                                    |   |
| 1995.11            | NHK 洋楽オーディション合格                                   |   |
| 1995.11            | 『h-moll Messe』 J.S.Bach                           | 指揮 Pavle Despaly<br>東京芸術大学管弦楽団                  |
|                    | 於 東京文化会館  |   |
| 1996.2/19          | 富士通ジョイントリサイタル                                     | ピアノ 外川千帆  |
|                    | Schubert, Brahms の歌曲、日本歌曲他                        |   |
|                    | 於 ホテル青森   |   |
| 1996.6/14          | リサイタル   | ピアノ 吉川隆弘  |
|                    | Schubert, Schtrauss の歌曲、日本歌曲他                     |   |
|                    | 於 コンサートサロンミューズ                                    |   |
| 1996.11            | 『Elias』 F. Mendelssohn                            | 指揮 Gerhard Bosse<br>東京芸術大学管弦楽団                  |
|                    | 於 東京芸術劇場  |   |
| 1997.5             | 『Johannes Passion』 J.S.Bach                       | 指揮 Hans Joahim Rotzch<br>アンサンブルオプトウキョウ          |
|                    | 於 東京芸術劇場  |   |
| 1997.6/1           | 『Die erste Walpurgisnacht』 F. Mendelssohn         | 指揮 Gerhard Bosse<br>東京アカデミッシュユカペレ<br>管弦楽団、合唱団   |
|                    | 於 Bunkamura オーチャードホール                             |   |
| 1997.7             | Hans Gavao Opera International Competition 於 ウィーン |   |
|                    | 日本代表として準決勝まで進む                                    |   |
| 1997.8             | 『Don Carlos』 G.Verdi Ebori 役                      | 指揮 大野和士   |
|                    | アンダースタディ  |   |
| 1997.12/21         | Beethoven 『第九交響曲』                                 | 指揮 武田善美   |
|                    | 第三回日米友好クリスマス特別公演                                  |   |
|                    | 於 Carnegie Hall, New York                         |   |
| 1998.2/21          | 『Johannes Passion』 J.S.Bach                       | 指揮 Georg Christoph Biller<br>東京 J.S.バッハ管弦楽団、合唱団 |
|                    | 於 東京芸術劇場  |   |
| 1998.2/24,25,26,27 | 『Street Scene』 K.Weil Olga 夫人役                    | 指揮 Randal Behr                                  |
|                    | 於 Juilliard 内 305 教室                              |   |
|                    | Juilliard School 主催                               |   |



- 1998.4/4 Schumann 『女の愛と生涯』 ピアノ Hojeong Jeong  
 リーダー アーベント  
 於 Paul Reccital Hall, Juilliard
- 1998.7/9,11,13,15 『Falstaff』 G.Verdi Quickly 夫人役 指揮 Julius Rudel  
 於 Wheeler Opera House, Aspen  
 Aspen 音楽祭主催
- 1999.1/23 『Requiem』 G.Verdi 指揮 三石精一  
 学習院 OB 管弦楽団、合唱団  
 於 東京芸術劇場
- 1999.1/25 東京芸術大学修士課程修了審査公開演奏会  
 Mahler 『子供の不思議な角笛』より 『さすらう若人の歌』 全曲  
 ピアノ 奥千歌子  
 於 東京芸術大学内第六ホール
- 1999.3/22,26 『L'Etoile』 E.Chabrier Aloes 役 指揮 Grant Gershon  
 Juilliard School 主催  
 於 Juilliard Theater
- 1999.3/28 Saint-Saens 『私の心は貴方の声に開く』 指揮 Joseph Corneli  
 A Celebration of Asian Voices  
 於 メトロポリタン歌劇場オーケストラ
- 1999.3/29 Brahms の歌曲 ピアノ Ken Noda  
 A Celebration of Asian Voices  
 於 The Grace Rainey Rogers Auditorium
- 1999.4/1 Mahler 『リュッケルトによる歌曲』 ピアノ Hojeong Jeong  
 リーダーアーベント  
 於 Paul Reccital Hall, Juilliard
- 1999.4/12 Juilliard vocal Concert Competition 第一位  
 99 年秋学期、ジュリアードオーケストラ定期演奏会にて  
 マーラー作曲 『リュッケルトによる歌曲』の独唱
- 1999.7/25 Wagner 『神々の黄昏』 第三幕、演奏会形式 Flosshilde 役  
 指揮 James Conlon  
 Aspen 音楽祭オーケストラ
- 1999.7/29,31 Rands 『Bella Donna』 世界初演 Agatha Liu 指揮 David Zinman  
 Wheeler Opera House, Aspen
- 1999.10/30 リチャ・アルバネーゼ・プッチーニ財団国際声楽音楽コンクール第2位  
 1999.12/23 第1回リサイタル  
 於 音楽の友ホール
- 2000.2 メトロポリタン・ナショナル・カンセル準決勝まで進む
- 2000.3/23,24,25 ショーソン 『終わりなき歌』  
 ブラームス 『ヴィオラとアルトのための歌曲』 他  
 室内楽コンサート  
 於 ハリスホール、アスペン
- 2000.4/9 バッハ 『マタイ受難曲』  
 東京 J.S.バッハ合唱団公演  
 於 東京文化会館

- 2000.5/20 マーラー『交響曲第8番』  
指揮 ジェームス・コンロン  
シンシナティ5月音楽祭
- 2000.6/25~7/31 ヴェルディ『ファルスタッフ』 クイックリー婦人役  
指揮 小澤征爾  
タングルウッド音楽祭
- 2000.8/1~25 プッチーニ『修道女アンジェリカ』 プリンチペッサ役  
指揮 ジュリアス・ルデール  
アスペン音楽祭
- 2000.10/5,7 モンテヴェルディ『ポッペアの戴冠』 アルナルタ役  
於 Stuttgart Staatsoper (シュトゥットガルト州立歌劇場)
- 2000.11/21 コンテンポラリーミュージック(現代音楽)の夕べ  
於 アリスタリーホール(ニューヨーク)
- 2000.12/5 ベートーヴェン『交響曲第9番』  
於 コンセルトヘボウ(オランダ・アムステルダム)
- 2000.12/17 モンテヴェルディ『ポッペアの戴冠』 アルナルタ役  
於 Stuttgart Staatsoper (シュトゥットガルト州立歌劇場)
- 2001.1/26 モンテヴェルディ『ポッペアの戴冠』 アルナルタ役  
於 Stuttgart Staatsoper (シュトゥットガルト州立歌劇場)
- 2001.2/28 ストラヴィンスキー『夜鳴きうぐいす』 死神役  
東京フィルハーモニー交響楽団  
於 オーチャードホール
- 2001.4/25,27,29 プーランク『カルメル会修道女の対話』  
於 ジュリアードオペラセンター
- 2001.5/17,19 マーラー『交響曲第2番』  
ルイジアナ・ニューフィルハーモニー
- 2001.5/26 モンテヴェルディ『ポッペアの戴冠』 アルナルタ役  
於 Stuttgart Staatsoper (シュトゥットガルト州立歌劇場)
- 2001.6/17 モーツァルト『戴冠ミサ』  
みのわ会20周年記念コンサート  
於 市川文化会館
- 2001.6/23 第2回リサイタル  
於 津田ホール
- 2001.7/15 マーラー『交響曲第3番』  
市川交響楽団創立50周年記念コンサート
- 2001.7/28 ヴェルディ『オテロ』 エミリヤ役  
指揮 デビット・ズイマン  
アスペン音楽祭
- 2001.12/10 マーラー『交響曲第2番』  
於 カーネギーホール  
ジュリアードオーケストラ

## “鳴ちゃんを悼む”

佐々木正利

『いたずらに自己規制することなく、謙虚な意欲を持ち続けること』  
『常に本物を追い続け、本物に触れ、本物に慣れ、本物になること』  
『感動に走りがちアマチュアと、テクニックに走りがちプロの欠点を自覚し、バランスのとれた演奏を目指すこと』

私が、自分自身に、そして弟子たちに、常に説いてきた座右の銘。けれど、自分自身を含めて、なかなか実践できなかつた座右の銘。その最高の実践者が、鳴海真希子さんであることを、私の回りにいる誰もが等しく疑うことはありませんでした。

後輩のみなが尊敬し、私もできることならと誰もが目標にもし、先輩の我々すら誇りに思っていた鳴ちゃんが、逝ってしまいました。神様の領域に立ち入ることはできないけれど、そして神様の御心は絶対と思っているけれど、あんなにひたすらに頑張ってきた鳴ちゃんを、神様は御許に呼び寄せてしまった。神様、どうしてそんなに早く、彼女を召されたのですか。彼女の果す役割は、もっともっとあったはずなのに、なぜあなたは……。

無念の思いは、ご両親を筆頭に末席の我々にまで、心痛極まりなく迫り来ます。何よりも、鳴ちゃん自身の思いは、想像するに余り有ります。でも彼女は、いつか死を受け入れた時があったはずで、神様の声を聞いたはずで、そう、私たちには決して聞こえない、神様の声を。そうでなければ、あんなに自然で美しい死に顔を見せられるはずがない。そうだ、神様と鳴ちゃんの会話に、私たちが首を突っ込むことは許されないんだ、と思います。そこは、いずれ我々も知るではあろう、聖域です。うん、いずれさ、鳴ちゃん。

残された方々がいつまでも悲しみの淵に沈んでいることは鳴ちゃんも決して望んではないこと。悲しみを乗り越え元気を取り戻すことが第一の慰めかと思えます。今日の演奏の一つひとつが、生前の鳴ちゃんと深いつながりがあるものばかり。彼女を悼んでの、心を込めた演奏の一つひとつが、鳴ちゃんに触発され続けた仲間たちの、これまでの証であり、これからの決意なのです。しっかり聴いてくれな、鳴ちゃん。



鳴ちゃんが、私の許でどのようにして成長していったか。今日はもう少し紙面をお借りして、印象的なエピソードを紹介しておきたいと思います。その全部を語ったら、鳴海真希子人物論として、立派な論文が書けそうなほど、思い出はいっぱい詰まっているけれど、他筆に譲り合わせながら、心の中の鳴ちゃんに触れていくことに致します。

鳴ちゃんが入学した昭和62年度の入試は、グループ分けA&B(Cもあったかな?)として複数受験が可能になった最初の年。平均すると毎年20名前後の志願者がある音楽科ですが、この年だけは何と64名の受験生で溢れました。志願者数とレベルが単純に正比例するとは考えにくいのですが、確かにこの年度の入学生は、レベルも意欲も高かったと思います。そんな中、鳴ちゃんも第1志望の東京学芸大学(D類ピアノ専攻)に見事落ちこちて、傷心をもって岩大に入学してきたのです。彼女は、青森高校時代は吹奏楽をやってきたとかで、なぜに岩大合唱団に入ったかは定かではありませんが、とにかくその合唱団での活動をもって、私との付き合いはスタートしたのです。

その頃、上田通りには“うっちゃん”という行き付けの居酒屋がありました(今は栗石でペンションを経営しておられますが)。毎週(毎日?)のように、私たちはうっちゃんのカウンターで、マスターも交えて、人生談義、音楽談義に花を咲かせていたものでしたが、そこででのこと。ほとんど初対面の鳴ちゃんが、酔いに任せて、私は夢やぶれて岩大に来た、本当は学芸に行きたかったんだと力説しているではありませんか。結構そうした御仁がおられるので、慣れっこの私は釜をかけてみました。「なぜ学芸に行きたかったの?学芸の方が岩大よりレベルが高いついていうの、良い先生がいるついでいうの?!」とね。彼女は、なぜそんなことを仰

るのかわからない、そんなこと当然でしょ、という顔をしています。私は続けて、学芸の先生の方が上かもしれないけれど、でもね、私のいうことをできるようになってから、岩大を評価してよね、とかなり厳しい口調で戒めました。そうです、それがきっかけで彼女との声楽のレッスンが始まったのです。

その頃の私は、岩大に赴任してから7年が経過していましたが、その間、バッハ等の国際講習会では、岩大旋風が巻き起こったり(終了オーディションで、各パートのソリストが、ごとく岩大組に占拠される事態が起きたこともありました。全国、いや世界から参集した精鋭たちを尻目にですよ)、芸大に優秀な成績で送り込んだりと、結構声楽教育には自信を深めていた自分でありましたから、決して正鵠を射ていない、世の中の評価、風潮には、内心忸怩たる思いをもっていたものです。考えてみれば、鳴ちゃんもその網に引っ掛かったのですね。この網は、少なくとも正しさを証明するためのものでしたから、強固に張り巡らされ、結構?締め付けも厳しかった!と思われま。けれど、そうした環境が、生来の頑張り屋の鳴ちゃんには良かったのでしょうかね。それまで、本格的レッスンを受けたことのない声楽の分野で、彼女の才能はどんどん芽を伸ばし、他の学生の目標となるに、そう時間を要さなかったのですから。



鳴ちゃんとは、本当によく飲みましたね。そしてとことんまで語り合いました。彼女は私の持っているもの、ほとんどすべてを吸収したと、いい。勿論、そしてとっくに私を凌駕しました。盛岡では、声楽での師弟関係のみならず、岩大合唱団で学生指揮者として、盛岡バッハ・カンタータ・フェラインでアルトのパート・リーダーとして、私を支え励ましてくれました。また研究室の同期とは、ともに切磋琢磨し涙を流し、ドイツ演奏旅行では見事にソロを受け持ち花を開かせ、芸大に進学してからも、カンタータ・クラブでは指導的立場に就き、リリング指揮のマタイでは、ソリストの私の後ろでゲヒンゲン聖歌隊に入ってアルトを歌い、芸大定期で何遍もソロを務め、ついには私とも、ソリストとして共演したものでした。私があまり手を染めなかったオペラの分野でも、彼女はめきめきと頭角を表し、我々の最後の共演となった一昨年12月のオランダ・アムステルダム・コンサートへボウでの第九でも、かつて私の憧れでもあった「シュトゥットガルト歌劇場」の、今正に活躍中の歌手としての訪蘭であったのです。

こんなすごい鳴ちゃんだったけど、決して奢り高ぶることなく、常に回りを気遣い、世話好きで話好き、自分のことより人のことを最優先する性格は、きつとご両親ゆずりなのに違いありません。私は、縁あって妹の満美ちゃんと親交がありましたが、とても優しくまっすぐな性格の満美ちゃんに好意を抱いたものでした。そして、鳴ちゃんのご葬儀ではじめてお会いした兄上の、謙虚で律儀な、そしててきぱきとした立ち振る舞いをみて、ああ、これは鳴海家の伝統、教育なんだなと、ただ感服するだけでなく、衷心より感謝したものでした。こういうご家族のことを思うと、また無念さが込み上げようというもの。最前の記述と矛盾するようですが、どうぞお許し下さい。



今日、私が関係する演奏は、すべて鳴ちゃんとの思い出がいっぱい詰まっています。それらを順不同に紹介致しますと、我が研究室現役学生総出演のステージは、鳴ちゃんが岩大4年の時、丁度教育実習を終えてすぐの頃（当時は教育実習は4年後期にやっていました）、鳴ちゃんも大変お世話になった、当時の県教委の指導主事、中村伸一郎先生が病に倒れられ、その後任として急遽附属中学校の佐美淳先生（現附属中副校長）が転出するに伴い、何とまだ現役の学生（しかも学部生）の鳴ちゃんが、3学期だけではありましたが特別講師として附属中に奉職した、その折りに指導した2曲（春に、In terra pax）。それと、やはり彼女が4年の4月、音楽科の新入生を歓迎するために、時の4年生が担当するミュージカル。その時に演奏した“サウンド・オブ・ミュージック”より、鳴ちゃん扮した修道院長が、マリアに対して、臆することなく道に歩みを踏み出さない、と励ます感動の歌であります。前者については、現役学生がいきなり附属中の講師になるなんて、鳴ちゃんが如何に優れていたかを物語るものでありますし、後者は、歌詞の内容としてもキャラクターとしても、正に鳴ちゃんの当たり役、感動の名唱が今も耳朶にしっかり残っているものです。

オール岩大合唱団のステージは、そう、鳴ち

さんが卒業してから2年目、第40回の記念定期演奏会で演奏した、フォーレのレクイエムより、リベラ・メ（我を許し給え）とイン・パラディズム（楽園にて）。OBも加わってのこの時の定演は、芸大2年になって、ますます磨きがかかった鳴ちゃんの豊かなアルトにも助けられて、大変感動的な名演と在野からも絶賛されたものです。

最後のステージの、盛岡バッハ・カンタータ・フェライン「ヨハネ受難曲、終わりの2曲」は、息を引き取られたイエスに、どうぞ天国の父なる神のもとで憩うて下さいと歌い、そして私たちの魂も、主と同様に神の御座の許、永遠の安息を与えて下さいと祈るものであります。私は、鳴ちゃんの魂が、この曲で歌われているように、天国で安らかにあるように、心より祈るためこの曲を選曲したのですが、その根底には、数年前東京で演奏した、H.J.ロッチュ指揮のヨハネ演奏会での、鳴ちゃんの名唱“Es ist vollbracht”（すべて事終われり）が伏線として息づいていることを申し述べねばなりません。

なお、私の独唱曲は、先にご紹介したオランダでの演奏会（第九等）の折り、私のソロ・ステージを聴いて、鳴ちゃんが、先生の「初恋」とても素晴らしいですね。感動しました、と言ってくれたものです。あとの讚美歌2曲は、私の気持ちそのままに、神様を賛美するものとして、鳴ちゃんの気持ちと合っている、という確信のもとに選曲したもの、と捉えて下さい。

現役の学生は、鳴ちゃんのことを直接知りません。でも、鳴海さんというすごい先輩がいたんだということを誇りにしています。何よりも、鳴ちゃんのお陰で、はじめて研究室全体での合唱に取り組むことができました。鳴ちゃんは亡くなくても、こうして我々を触発し、我々に勇気を希望を与えてくれる。ですから、魂を込めた今日の演奏を、ここまで導いてくれた沢山の

人々、特に渡邊伸作君と小川暁美さんの気持ちをかけ合わせて、天国の鳴ちゃんに捧げます。鳴ちゃん、冗談ぽく関西弁で「先生、いまいやな」なんて言わんといてや。

最後になりましたが、鳴ちゃんの功績を讃えて、留学先のアメリカ・ジュリアード音楽院では、鳴海真希子奨学生制度 the Makiko Narumi Foundation を作る動きがあるやに聞いています。私たちには、到底足下にも及びませんが、何とか意欲と力がある若者に、いかばかりかの援助ができたならなあなんて思っています。本日の演奏をお聴きになって、いくらかでも心動かされましたなら、我々の試みに善意の援助をお与え下さいますように、心よりお願い申し上げます。

（恩師。岩手大学教育学部音楽科教授。声楽家。）





## 「うん。そうだ。そうなんだ。」

佐々木まり子

2002年3月31日、例年よりかなり早いイースター（復活祭）の朝、一本の電話が鳴った。

“まり子先生、イースターおめでとうございます。教会にいらっしゃる前のお忙しい時間にごめんなさい。鳴海真希子です”

ああ、ナルちゃん!! なんとあなたのことを思い、声を聞きたかったことか!!

昨年8月メラノーマガンのIVステージという信じられない知らせを受けて以来、ニューヨークでの治療経緯の電話を受けるたびに、神様があなたの試練を共に歩んで下さり、必ず、脱出の道を備えて下さるからねと励まし、祈っていました。が、何回かのTelの後、その声が12月31日の最終手術の後しばらく聞くことができず、こちらではただ、ただ“神様、いやして下さい。彼女の恐れを取りのぞき、聖霊で満たし平安を与えて下さい”と祈るのみでした。

それが正に復活祭の朝、いつもと変わらぬハリのある声のTelに、丁度その日の午後から上京の予定だった私に、ああ神様が会いに行きなさいとおっしゃってるな、と思いました。私自身の不確定な日程をも神様は調整して下さい、翌4月1日、暖かな午後、相模原の北里病院の7階にてナルちゃんに再会し、抱き合っただけ言葉が出ませんでした。が、心配していたやせた様子もなく、治療のため一時抜けた髪がとてもかわいらしく伸びつくしんぼのようで、濃いまゆと、何よりもキラキラと輝くかのような瞳のナルちゃんが目の前にいたのです。かなりむくんだ左足と歩行器、

車椅子さえなければ、彼女がこのような厳しい状況にいることなど、信じられないほどでした。

私達は共に7階のロビーから遠くに見える美しい光景を見つつ、盛岡の仲間のこと、フェラインの25周年コンサートのこと、仙台宗音での「ヨハネ」のこと、芸大バウハカウンタークラブのこと、いろいろ話し合いました。彼女は“ここにいると山が見え、広々とした風景で盛岡にいるような気持ちになるんですよ。日本に帰ってきて、英語をしゃべることから解放されて、こんな楽な気持ちになれるとは思ってもいなかった。帰ってきて本当によかったと思っています”と言っていました。

残された治療方法があと2種類しかない中、彼女はこのガンと共存でいいから、治療を受けながら、自分のできることを、できる場所で、やり続けていきたいと希望を持って前向きに考えていました。

私はふと、こんなことを言いました—でも一番言いたかったことだったのです—“ナルちゃん。人はね、病気で死ぬんじゃないんだよ。「神様の時」が来ないうちは人は死なないんだよ。私だって明日、交通事故で死んじゃ

うかもしれない。だから人は一日一日、神様今日もよろしくお祈りしますと祈りつつ、今日成すべきことを一生懸命やって、一日を終わる時も、今日一日ありがとうございました。又、明日も共にいらして下さいと祈り、そして「神様の時」が来たら、何も恐れなくて、そのまま御手の中にいるままで、天国に引き上げていただければいいんだよ”

すると、彼女はあのキラキラした瞳を更に輝かせて、そして確信に満ちた大きな声でゆっくりと、“うん…。そうだ…。そうなんだ。”この三つの言葉を発したのです。

そして、私達は再びたわいもない話に花を咲かせていました。帰り際、私は茂木さんに頼んで、何とか一組届けてもらったカンタータフェライン25周年のCD —彼女はとても聴きたがっていたのです— と、ナルちゃんのことをも書いた「クレイ」を手渡しました。彼女にずっとつき添っていらした叔母様のお話しでは、その後彼女はヘッドホーンでくい入るようにそのCDをジッと聴き入っていたそうです。その4、5日後から体調をくずしたことを考えると、彼女の意識がはっきりした中で、彼女の耳と心と魂をこめて聴いた最後の音楽だったにちがいありません。彼女は手紙の中で「全ては神様のご計画があつてのこと。と我が身を委ねられるようになってきました」と告白していました。この告白が神様の許に届かないことなどあり得ましようか。

アルトのカンタータ Nr.106「汝が御手に我が魂を委ねます」は、彼女のその告白と私の思いも重ねて歌います。Nr.42「2人でも3人でも私の名によって集まるところに～」は、彼女の病気のことを内密にしていた中、斎藤

純子さん、吉田澄江さんと私の3人で、このみ言葉を信じて、私達には何の力もないけれど、全能の父なる神様に働いていただこうと、3月までの6ヶ月間、水曜日の午後一回も休むことなく祈り、会を支えていただきました。

2曲のデュエットの歌詩の内容にもナルちゃんの生き様が重なり、胸打たれます。

月が丘クワイアでの歌は、アメリカで英語での生活の中、何とか日本語での慰めの歌をしかも、なつかしい友人の声で届けたいと、その年の4月に行われたコンサートでのビデオと寄せ書きを送り、彼女はそれをとても喜んでくれました。その内の3曲を演奏します。

ナルちゃん、天国はどんな所ですか。

「見よ。神の幕屋が人と共にある。神は彼らと共に住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らと共におられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐって下さる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが過ぎ去ったからである」

黙示録 21 : 3、4

私達もあなたのように困難の中でも常に希望を持ちつつ、前進できるようになりたいと思います。そして出棺の時言ったように天国で又会おうね。おもいっきり賛美しようね。

(恩師。声楽家。)





## ～ プロフィール ～

- 藤崎 美苗** 岩手大学教育学部音楽科卒業。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修了。岩手大学合唱団ではチーフコンダクター、東京バロック・ゾリステン合唱団ではソプラノのパートリーダーを務める。現在東京在住。声楽家。
- 浅沼 友絵** 岩手大学教育学部音楽科卒業、同大学院修了。2000年、オランダでの「第九」で真希子さんと共演。現在専修大学北上福祉教育専門学校専任講師。紫波町在住。
- 及川 豊** 岩手大学教育学部音楽科、東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。岩手大学合唱団ではチーフコンダクターを務める。東京バロック・ゾリステン合唱団の常任指揮者であった真希子さんより後任として推薦され、現在も指揮を執る。現在、横浜市在住。浅野学園非常勤講師。
- 関口美彩江** 上野学園大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。真希子さんとは、かすかべ十字架合唱団の第一回クリスマス・オラトリオ演奏会で共演。東京在住。
- 佐藤 澄江** 岩手大学教育学部音楽科卒業。在学中は岩手大学合唱団に所属、ソプラノのパートリーダーを務める。山田町在住。
- 劔持 清之** 国立音楽大学卒業。仙台モーツァルト協会、グルッペ・ベッヒラインの演奏会で真希子さんの伴奏を務める。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン伴奏者。盛岡大学短期大学部助教授。岩手大学教育学部音楽科非常勤講師。
- 佐々木直樹** 岩手大学教育学部音楽科卒業、東京芸術大学声楽科を経て、現在同大学院修士課程に在学中。岩手大学合唱団では、バス・パートリーダーを務めた。
- 細田 彩子** 岩手大学教育学部中学校教員養成課程4年。2000年オランダでの「第九」で真希子さんと共演。

### 岩手大学教育学部音楽教育講座佐々木研究室

岩手大学教育学部音楽教育講座の所属学生の内、佐々木研究室に所属するメンバーで本演奏会のために組織された。真希子さんの後輩にあたる。

- 月が丘クワイア** 月が丘教会員を中心に合唱仲間の有志の協力を得て、毎年クリスマスに行っているチャペルコンサート等で歌っている混声合唱団。

- 岩手大学合唱団** 岩手大学内の合唱サークル。来年第50回の定期演奏会を迎える。真希子さんは1987年から1991年3月まで在籍し、2年生でサブコンダクター、3年生でチーフコンダクター（女性では歴代初）を務めた。

### 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

1977年、「カンタータを歌う会」として発足。真希子さんは1987年に入会、サブパートリーダー、パートリーダーを務めた。

## 歌 詞 対 訳

ああイエス、甘き御名よ

O Jesu, nomen dulce

O Jesu, nomen dulce, nomen admirabile,  
nomen confortans,  
quid enim canitur suavius,  
quid auditur jucundius, quid cogitatur dulcius,  
quam Jesus, Dei filius.

O nomen Jesu, verus animae cibus, in ore mel,  
in aure melos, in corde laetitia mea.

Tuum itaque nomen, dulcissime Jesu,

In aeternum in ore meo portabo.

ああ、イエス、甘き御名よ、驚くべき御名、  
力強き御名。

いったい何がより快く響くだろうか。  
より喜ばしく聞こえるか。より甘く思われるか。  
神の御子、イエスに比べれば。

ああイエスの御名よ、まことの魂の糧、  
口に甘く、耳には歌、私の心に喜び。

それゆえ、比類なく甘きイエスよ、  
永遠に私はあなたの御名を口にするだろう。

われは黒けれどうつくし、エルサレムの娘らよ

Nigra sum sed formosa, filiae Jerusalem

Nigra sum sed formosa, filiae Jerusalem.

Ideo dilexit me rex et introduxit me

in cubiculum suum et dixit mihi:

Surge, amica mea, et veni.

Iam hiems transiit, imber abiit et recessit,

flores apparuerunt in terra nostra,

tempus putationis advenit.

われは黒けれどうつくし、エルサレムの娘らよ。

されば王はわれを愛し

自らの部屋にわれをみちびき語りぬ。

立ちてきたれ、いとしきものよ。

冬は過ぎ雨はやみ遠ざかりぬ。

花々がわれらの地にあらわれ、

刈り入れのとき来たり。

カンタータ第 106 番「神の時こそ、いと良き時」より

Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit BWV 106

Arie (Alto)

In deine Hände befehl ich meiner Geist;

du hast mich erlöset,

Herr du getreuer Gott

アリア (アルト)

我が靈魂を汝の御手に委ねます。

汝は我をあがない出して下さいました。

主、まことの神よ。

カンタータ第 42 番「主イエスが復活された日曜日の夕方に」より

Am Abend aber desselbigen Sabbats BWV 42

**Arie (Alto)**

Wo zwei und drei versammelt sind  
In Jesu teurem Namen,  
Da stellt sich Jesus mitten ein  
Und spricht darzu das Amen.  
Denn was aus Lieb und Not geschicht,  
Das bricht des Höchsten Ordnung nicht.

**アリア (アルト)**

二、三人イエスの  
尊き御名によりて集えるところ、  
イエスはそのただ中に立ちたまひ、  
この群に対してアーメン（然り）と言いたもう。  
げにやまれぬ愛より起こりしことは、  
至高者の定めたまいし秩序を破ることなし。

カンタータ第 84 番「私はこの幸福に満足しています」より

Ich bin vergnügt mit meinem Glücke BWV 84

**Arie (Soprano)**

Ich bin vergnügt mit meinem Glücke  
das mir der liebe Gott be schert,  
Soll ich nicht reiche Fülle haben.  
so dank' ich ihm für kleine Gaben,  
und bin auch nicht der selben werth.

**アリア (ソプラノ)**

私は親愛なる神から贈られた幸福に満足しています。  
お金持ちのような豊かさをもつべきではないのです。  
私は神様にいただいたささやかな贈り物に  
感謝しています。  
私自身はそれにさえ値しない存在なのですから。

カンタータ第 3 番「ああ神よ、いかに心痛の多きことか」より

Ach Gott, wie manches Herzeleid BWV 3

**Arie (Duett: Soprano / Alto)**

Wenn Sorgen auf mich dringen,  
Will ich in Freudigkeit  
Zu meinem Jesu singen.  
Mein Kreuz hilft Jesus tragen,  
Drum will ich gläubig sagen:  
Es dient zum besten allezeit.

**アリア (ソプラノ・アルト二重唱)**

もろもろの思いわずらい押し迫るとき、  
われは喜ばしき霊をもて  
わがイエスをば仰ぎて歌わん。  
イエスこそわが十字架を負う助け、  
ゆえにわれは信じて言わん、  
わが負う十字架は日々最善をもたらすなりと。

カンタータ第 80 番「神は我がやぐら」より

Ein feste Burg ist unser Gott BWV 80

Arie (Duett: Alto / Tenore)

Wie selig sind doch die,  
die Gott im Munde tragen.  
Doch seliger ist das Herz,  
das ihn im Glauben trägt !  
Es bleibet unbesiegt  
und kann die Feinde schlagen  
Und wird zuletzt gekrönt,  
weun es den Tod erlegt.

アリア (アルト・テノール二重唱)

いかに幸いなるかな、  
その口にて神を言い表す者は。  
されど更に幸いなるかな、  
信仰のうちに神を担う者は。  
その人は打ち破らるることなく、  
その敵に打ち勝ち、  
死を打ち倒したる時、  
ついに冠を受けん。

「レクイエム」より

Requiem

LIBERA ME

Libera me, Domine, de morte aeterna  
in die illa tremenda  
quando coeli movendi sunt et terra,  
Dum veneris judicare  
saeculum per ignem.  
Tremens tactus sum ego,  
et timeo dum discussio venerit  
atque ventura ira.  
Dies illa, dies irae  
calamitatis et miseriae;  
dies illa, dies magna  
et amara valde.  
Requiem aeternam dona eis, Domine.  
et lux perpetua luceat eis.  
Libera me, Domine.

我を許したまえ

主よ、私を永遠の死から解放し給え、  
かの恐ろしい日に。  
天地がふるえうごくその日。  
主が、この世を火で  
審きに来給う時。  
私は、来るべき審きと  
怒りとを思って  
ふるえおののく。  
その日こそ怒りの日、  
わざわいの日、なやみの日、  
その日こそ大いなる  
悲嘆の日。  
主よ、永遠の休息をかれらに与え、  
たえざる光をかれらの上に照らし給え。  
主よ、私を解放し給え。

(男 声) 小原 竜太 美 貴之 柿崎 俊史 織田 文裕 下町 佳孝  
田口 和生 千田 敬之 藤村 誠毅

## IN PARADISUM

In paradisum deducant angeli;  
in tuo adventu  
suscipiant te martyres.  
et perducant te,  
in civitatem sanctam Jerusalem.  
Chorus angelorum te suscipiat,  
et cum Lazaro quondam paupere  
aeternam habeas requiem.

### 「ヨハネ受難曲」より

Johannes Passion BWV 245

Ruht wohl, ihr heiligen Gebeine,  
die ich nun weiter nicht beweine,  
ruht wohl  
und bringt auch mich zur Ruh !  
Das Grab, so euch bestimmt ist  
und ferner keine Not umschließt,  
macht mir den Himmel auf  
und schließt die Hölle zu.

Ach Herr, laß dein lieb Engelein  
am letzten End die Seele mein  
in Abrahams Schoß tragen,  
den Leib in seim Schlafkämmerlein  
gar sanft ohn einge Qual und Pein  
ruhn bis am Jüngsten Tage !  
Alsdenn vom Tod erwecke mich,  
daß meine Augen sehen dich  
in aller Freud, o Gottes Sohn,  
mein Heiland und Genadenthron !  
Herr Jesu Christ, erhöre mich,  
ich will dich preisen ewiglich !

## 楽園にて

天使らが、あなたを天国に連れて行くように。  
あなたがそこに着くとき、  
殉教者たちがあなたを出迎えて、  
あなたをみちびくように、  
エルザレムの聖なる町に。  
天使のむれがあなたを出迎え、  
かつて、貧しいラザロの入ったその  
永遠の休みにみちびかんことを。

安らかに眠って下さい、汝 聖なる骸(むくろ)よ、  
わたしはもうあなたを悼んで泣きません。  
安らかに眠り、  
そしてわたしにも安息を与えて下さい！  
この墓はあなたのものに定められ、  
もうどんな苦しみもその中に包みません。  
この墓がわたしに天の扉を開き、  
地獄への道をふさいでくれるのです。

ああ主よ、どうかあなたの愛する御使いに命じ、  
最期の時にはわたしの魂を  
アブラハムのひざの上に運ばせて下さい。  
この体をその寝室で  
少しの苦しみも痛みも無く安らかに  
最後の審判の日まで休ませて下さい！  
その日には、わたしを死の眠りから覚まして下さい。  
わたしの目があなたの姿をこの上ない喜びの内に  
とらえられるように。おお神の子よ、  
わたしの救い主よ、恩寵の座よ！  
主イエス・キリストよ、わたしの願いを聞いて下さい、  
わたしはとこしえにあなたをほめたたえます！

## 合唱団出演者

### 岩手大学合唱団OB・OG合同

|        |        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 【ソプラノ】 | 赤塚 温子* | 阿部未佳子  | 荒田 奈美  | 磯部真理子* | 小川 敬子* |
|        | 尾友 佳子  | 菊池 福子* | 工藤 香織  | 佐々木美知子 | 佐藤 詩織  |
|        | 佐藤 澄江* | 佐藤 千砂* | 佐藤 理恵* | 隅 貴子*  | 滝口 彩   |
|        | 田村いずみ  | 千田 雅子* | 軒 多賀子  | 藤崎 美苗* | 山崎みどり  |
|        | 横内 愛理  |        |        |        |        |
| 【アルト】  | 小川 暁美* | 石川 晶子  | 菊池 葉子  | 工藤 由紀  | 佐々木邦子* |
|        | 澤田 萌   | 鈴木 千秋* | 鈴木 英美* | 高橋 温   | 三上沙由里  |
|        | 宮野美佐子  | 宮 史子   |        |        |        |
| 【テノール】 | 及川 豊*  | 小山内 薫  | 織田 靖夫* | 鏡 貴之   | 加藤 照道  |
|        | 後藤 頼男  | 柴田 幸吉  | 柴内 宏充* | 鈴木 勇二* | 田口 和生  |
|        | 寺澤 敬行* | 徳山 欣也  | 福岡 孝悦  | 渡邊 伸作* |        |
| 【バス】   | 東 勝*   | 稲邊 督*  | 大友 拓磨  | 小野寺 悠  | 小原 竜太  |
|        | 佐々木直樹* | 高橋 優太  | 長尾 裕一  | 藤村 誠毅  | 三嶋 豊*  |
|        | 雪田 正和  |        |        |        |        |

(\*印はOB・OG)

### 岩手大学合唱団OB・OG有志

|        |       |       |       |       |  |
|--------|-------|-------|-------|-------|--|
| 【ソプラノ】 | 赤塚 温子 | 佐藤 千砂 | 千田 雅子 |       |  |
| 【アルト】  | 小川 暁美 | 佐々木邦子 | 鈴木 英美 |       |  |
| 【テノール】 | 及川 豊  | 織田 靖夫 | 寺澤 敬行 | 渡邊 伸作 |  |
| 【バス】   | 稲邊 督  | 沼田 弘二 | 三嶋 豊  |       |  |

### 岩手大学教育学部音楽教育講座佐々木研究室

|        |       |       |       |       |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 【ソプラノ】 | 阿部 慈子 | 荒田 奈美 | 大川 敦子 | 大場 智果 | 尾友 佳子 |
|        | 佐藤 美紀 | 白金 真美 | 菅原 亜希 | 高橋 祐圭 | 田口千紗都 |
|        | 田村いずみ | 千田 愛  | 千葉明日香 | 軒 多賀子 | 藤澤 智子 |
|        | 宮古 朋枝 | 山崎みどり | 横内 愛理 | 渡邊 絵美 | 渡辺真理子 |
| 【アルト】  | 浅見香奈絵 | 阿曾 万里 | 五十嵐祐子 | 扇田 暁子 | 菊池 葉子 |
|        | 木村栄美子 | 熊谷 萌香 | 工藤 由紀 | 佐々木千尋 | 佐藤 詩織 |
|        | 杉本 絵美 | 高橋 温  | 内藤 梓  | 中沢 美香 | 中村 圭  |
|        | 成田 茜  | 細田 彩子 | 三上沙由里 | 宮野美佐子 | 谷地畝晶子 |
| 【男 声】  | 小原 竜太 | 鏡 貴之  | 柿崎 倫史 | 嵯峨 文裕 | 下町 佳孝 |
|        | 田口 和生 | 千田 敬之 | 藤村 誠毅 |       |       |

IN 月が丘クワイア

【ソプラノ】 赤塚 温子 小原 育世 斎藤 純子 佐藤 澄江 吉田 澄江  
 【アルト】 小川 暁美 中野 晶子 藤澤 怜子 茂木 容子  
 【テノール】 鏡 貴之 鈴木 康之 田代 亮 中野 寛司  
 【バス】 赤塚 貴史 小原 一穂 佐藤 和久 芳賀 郁夫 吉田 俊彦

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

【ソプラノ】 赤塚 温子 浅沼 友絵 阿部未佳子 阿部友紀子 荒田 奈美  
 五十嵐祐子 磯部真理子 大石 敦子 大川 敦子 大矢 克子  
 小澤めぐみ 尾友 佳子 菊池 節子 熊谷 充代 斎藤 純子  
 佐藤 詩織 佐藤 千砂 佐藤 美紀 菅原 亜希 高橋 聡子  
 高橋 祐圭 田口千紗都 竹森美映子 田村いずみ 丹野 貞子  
 千田 雅子 千葉明日香 軒 多賀子 藤崎 美苗 藤澤 智子  
 増澤 綾子 三原 佳織 村上 育子 矢幅 嘉子 山崎みどり  
 横内 愛理 渡邊 絵美 渡辺真理子

【アルト】 阿曾 万里 扇田 暁子 小川 暁美 小川 暁子 小澤かおる  
 小田島千恵 小野寺洋子 金子 千鶴 兼田紀美子 菊池 敏子  
 菊池 葉子 桐原 絹子 工藤 由紀 今野 早苗 佐々木美智子  
 佐藤 公 佐藤 恵 杉本 絵美 鈴木栄見子 鈴木 英美  
 高橋 温 武田 敏恵 丹野 まり 千葉ゆつき 長澤 雅子  
 原 穂波 平井 良子 廣瀬利津子 福田 祐子 細田 彩子  
 村上 殖子 茂木 容子 守口由美子 谷地畝晶子 渡辺しをり

【テノール】 伊藤 勝元 太田 穎則 小川 隆弘 小山内 薫 織田 靖夫  
 鏡 貴之 柿崎 倫史 加藤 照道 嵯峨 文裕 佐々木和義  
 佐々木朋也 佐々木幹雄 柴田 幸吉 高橋 真哉 徳山 欣也  
 中川 喜之 中野 寛司 三原 正敏 渡邊 伸作

【バス】 赤塚 貴史 大友 拓磨 小原 一穂 後藤 頼男 下田 潤  
 菅原 哲也 田沢 隆 千田 敬之 芳賀 郁夫 藤村 誠毅  
 松岡 静一 水野 郁夫 横山 泉 吉田 俊彦 渡辺 信之

# 演奏会に協賛いただいた方々

(五十音順)

## 【団 体】

岩手大学合唱団  
 岩手大学教育学部音楽教育講座佐々木研究室  
 鳴海真希子後援会  
 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

## 【個 人】

|            |             |            |
|------------|-------------|------------|
| 青木美樹子 (菊地) | 岩井花文枝       | 織田 靖夫      |
| 赤塚 温子 (福田) | 岩渕 美紀 (小池)  | 小野 英樹      |
| 赤塚 貴史      | 宇津宮美奈子 (尾形) | 小野寺洋子      |
| 浅沼 友絵      | 遠藤 淳        | 柿沢 香織 (伊藤) |
| 東 勝        | 遠藤 康成       | 金子 千鶴      |
| 阿部 真治      | 及川 公子       | 兼田紀美子      |
| 石川 律子 (小原) | 及川 直美       | 鎌田奈緒子 (鈴木) |
| 石川 秀俊      | 大石 敦子       | 上林 節子 (渡部) |
| 泉山真貴子      | 大下 聡        | 川村 雪江 (佐藤) |
| 礒部真理子 (清水) | 太田 穎則       | 菅崎真里子 (大下) |
| 板垣 昌利      | 大西 博子       | 菊池 節子      |
| 一井 陽子 (平野) | 大平 昌次       | 菊池 福子      |
| 伊藤 勝元      | 大森 弘雄       | 菊池美奈子 (伊藤) |
| 伊藤 久美      | 大矢 克子       | 木下 昌幸      |
| 伊藤 直己      | 小川 暁美       | 清木恵美子      |
| 伊藤 源成      | 小川 敬子 (古内)  | 桐原 絹子      |
| 伊藤 朗子 (吉田) | 小川 隆弘       | 熊谷 充代      |
| 稲邊 督       | 小川 皖子       | 劔持 清之      |
| 井上栄美子 (渡辺) | 長田由喜子       | 後藤田篤夫      |
| 井上未由子 (加藤) | 小澤めぐみ       | 小林 由美 (伊藤) |
| 入澤 聡美      | 織田真由美       | 昆野 綾 (菊池)  |



今野 早苗  
斎藤 健  
斎藤 純子  
斎藤 誠司  
坂牛 祐司  
佐々木和夫  
佐々木邦子  
佐々木朋也  
佐々木典子  
佐々木正利  
佐々木まり子  
佐々木幹雄  
佐々木美智子  
佐藤 公  
佐藤 京子 (大内)  
佐藤 澄江 (遠藤)  
佐藤 千砂  
佐藤 舞子  
佐藤 恵  
佐藤 芳郎  
佐藤 理恵 (新沼)  
澤田 修  
柴内 宏充  
下田 潤  
東海林三紀  
塩飽由美子  
菅 由里 (大木)  
菅原 恵子 (樋渡)  
鈴木栄見子  
鈴木たたえ (門脇)  
鈴木 千秋  
鈴木 英美  
鈴木 恵  
鈴木 康之  
鈴木 優子 (戸蒔)  
鈴木 勇二  
隅 貴子 (早川)  
鷹城 一典  
鷹城 祥子

高橋 聡子  
高橋 聡  
高橋 理衣 (横山)  
武田 匡子  
武田 敏恵  
武田 宏之  
竹森美映子  
田沢 隆  
田村 絵理 (内野)  
丹野 貞子  
丹野 まり  
千田加代子  
千田小百合 (角掛)  
千田 敬之  
千田 雅子  
千葉 紅子  
千葉 晴重  
堤 智恵子  
寺澤 敬行  
伝法谷 真  
栃久保育子 (井上)  
中野 晶子  
中村伸一郎  
中村 尚子 (小林)  
沼田 弘二  
芳賀 郁夫  
浜名 健雄  
林 哲央  
早田さち子  
早田 智明  
原 穂波  
廣瀬利津子  
福田 祐子  
藤澤 怜子 (阿部)  
藤沢 春江  
藤田亜貴子 (金子)  
増渕 徹  
松岡 静一  
松崎和佳子

松島 俊二  
松本 圭 (平山)  
三嶋 智美 (盛山)  
三嶋 豊  
水野 郁夫  
三原 佳織  
三原 正敏  
村上 育子  
村上 殖子  
茂木 容子  
森 順一  
守口由美子  
矢幅 嘉子  
山口 晶子 (師岡)  
山崎 裕美  
山崎 美香  
横山 泉  
吉田 澄江 (中村)  
吉田 俊彦  
脇田 史朗  
渡辺しをり  
渡邊 伸作 (菅原)  
渡辺 信之  
渡邊 真子  
( ) 内は旧姓

What a Friend we have in Jesus  
Joseph Scriven, c. 1855

WHAT A FRIEND  
Charles Crozat Converse, 1868

い つくし み ふ か き と も な る イ エ ス は

つ み と が ら れ い を と り さ り た も う (物)

こ こ ろ の な げ き を つ つ ま ず の べ て

な ど か は お ろ さ ぬ お え る お も に を ア ー ン

マタ 11:28 出エ 33:11, 14 箴言 18:24 詩篇 13:5 ヨハ 15:13-15 IIコリ 1:5

1

い つ く し み 深 き 友 な る イ エ ス は、  
罪 と が 憂 い を と り 去 り た も う。  
こ こ ろ の 嘆 き を 包 ま ず 述 べ て、  
な ど か は 下 さ ぬ、 負 え る 重 荷 を。

2

い つ く し み 深 き 友 な る イ エ ス は、  
わ れ ら の 弱 き を 知 り て 憐 む。  
悩 み か な し み に 沈 め る と き も、  
祈 り に こ た え て 慰 め た ま わ ん。

3

い つ く し み 深 き 友 な る イ エ ス は、  
か わ ら ぬ 愛 も て 導 き た も う。  
世 の 友 わ れ ら を 棄 て 去 る と き も、  
祈 り に こ た え て 勞 り た ま わ ん。